

利用・するとされる

「利用する人　される人　そのまた人を担ぐ人」

世の中には、この様なことが結構上手に転がっているものだ。

一般社会にも言えることだが、政界・官界・財界などに特に多いらしい。

最近では、神聖な教育界にまで魔の手が延び、黒く染まっているようである。

情けない、侘びしい、虚しい、悲しい、悔しい、寂しい、など腹が立って涙が流れる。呆れて言いようのない焦燥感に襲われた。

これが現代の風習感覚なのだろうか？　私は、そうは思わない。

「来年の事を言うと鬼が笑う」と言う。それでは「過去の事を言うと、誰が笑うのか」その笑い声の主は、心に一物ある人間だ。

そこで考えてみたい事がある「昔は、〇〇〇だった」と言っただけで、丁髷人間やひどい時には類人猿扱いにされてしまう。

「そんなの古いよ」「今時合わないよ」とかで、一蹴され笑われる。

よしとばかり、「〇〇〇について」その相手と議論してみる。

幼稚な発想と、勉強不足の論理しか返って来ないことがまま有るのだ。

自分は現代人で最先端を行っている人間だと、勝手に思っている類の独り善がりの何物でもない。

偉そうなことを言っても、理路整然としていないのだ。

「お前ら、理屈を言う前に勉強しろ」と怒鳴りつけてやりたい。

過去（昔）には、すばらしい教訓や慣習が沢山ある。現代でも通用する幾多の貴重なものが残されている。

「素直に、過去も大切にしなさい」と、声を大にして言いたい。

古今東西「理に勝って非に落ちる」とあるように、道理を並べ立てて勝っても、実質的には不利になってしまう。勉強不足が命取りになる事もあるのだ。

簡単に、利用されてしまうことも多々あるが、時と場合に依っては仕方がないかもしれないし、そうせざるを得ないこともある。

ただ、「理に合わないことは、すべきではない」。

利用・するしない、担ぐにどう対処すべきか、よく考えて行動して欲しい。

「利用するのも、されるのも」対応する人間次第である。心せよと申しあげておきたいと思う。

利用する人＝自分の都合や欲望を叶えたい人。

利用される人＝利害関係や事情のある人。

担ぐ人＝協力者や上手に乗せられている人。